



「神の国と神の義を求めて～変わらない正義～」

2025年6月29日

にっぽんせいこうかい はちのへせい きょうかい
日本聖公会八戸聖ルカ教会

かんり ぼくし しさい こしやま てつや
管理牧師 司祭 ステパノ 越山 哲也

NHK朝の連続テレビ小説「あんぱん」が放映されています。アンパンマンの作者であるやなせたかしさんと暢さんの激動の生涯を描いた夫婦の物語です。6月の放送は戦時下の様子が丁寧に描かれ、胸が苦しい放送回でした。戦争によって多くの命が失われ、家族が悲しみのどん底に突き落とされ絶望し、いかに戦争が無意味な事であるかと思わされました。私が小学校6年生の時の夏休みの自由研究で「太平洋戦争」の事を取り上げ、祖父から戦争の経験を聴きました。戦時下においては食べ物がなく、野草やねずみを食べて飢えをしのぎながら、小隊長だった祖父は部下を誰も失わずに生き抜いたことを話してくれました。そして「もう二度と戦争はしてはいけない」との言葉を私は今でも覚えています。平和のためにしなければならないのは「教育」だと思います。教会のプログラムで「平和教育」が諸々準備されています。沖縄週間、平和の旅など私も機会があれば是非参加したいと思っています。

戦時下の教育で教えられた「正義」は日本の敗戦で一瞬にしてひっくり返りました。やなせたかしさん曰く「正義は逆転する」のです。正義の価値観は人によって違います。戦争は、国と国同士の「正義」がぶつかって起こるのです。それでは、逆転しない正義はあるのでしょうか。やなせさんが思う逆転しない正義とは、「ひもじい人を助けること」でした。戦時中に派遣された上海で朝晩の薄いお粥しか支給されず、「若い時の空腹というのは、ぜんぜん我慢ができない」「飢えるってことが一番つらいこと」と身に染みて学んだというやなせさんは、「そこに飢えている

人がいれば、その人に一切れのパンをあげるということは、A国へ行こうが、B国へ行こうが、正しい行い」と言い、飢えを助けるヒーローとして、自分の顔を他者に分け与える「アンパンマン」が生まれたことも語っています。

これを聞いて私は聖歌「282番」が脳裏に浮かびました。私の愛唱聖歌です。入信の式・堅信式、聖職按手式などでよく選ばれますが、その3節の歌詞はこうです。

「貧しい人を わたしは見つめ 祝いの席に招こう すべてを満たす 尊いパンで

神の命を与えよ

あなたに呼ばれて わたしは歩みます

わたしをこの世に 遣わしてください」

主イエスは自分の身体を私たちに与えて命を与えてくださいました。

主は言われます。「神の国と神の義とを求めなさい。」(マタイ6章33節)

神の国はすべての人が満たされた状態です。それを目指すことこそが神の義であり、変わらない正義(逆転しない正義)だと信じます。

